

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 60分

## 解答形式

記述・論述・計算・描図・選択

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

地質図を用いた問題が出題されなかった。

## その他トピックス

計算問題が減少し、論述問題が増加した。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 記述 計算	プレートテクトニクスと地震	地学基礎 地学	プレート境界の特徴、深発地震、マントル対流に関する問題であった。(3)は、単位に注意して計算する必要があった。	標準
[II]	記述 選択 論述	日本列島の形成	地学	日本列島の形成に関する問題であった。日本列島の形成の時代背景を理解し、岩石や火山活動の特徴を正確に把握しておく必要があった。	標準
[III]	記述 選択 論述	地表の変化	地学基礎	地表の変化に関する問題で、粒径と流速の関係を示すグラフを読み取る力が問われた。日本の河川の特徴や扇状地の形成過程についての理解が必要であった。	標準
[IV]	記述 論述 選択	宇宙	地学	天体までの距離を推定する方法、惑星の位置関係、HR図に関する問題であった。HR図を読み取る力が必要であった。	標準
[V]	論述	ホットスポット 生物の変遷 海岸段丘 太陽系の誕生 日本の災害	地学基礎 地学	五つの語句群の中から二つを選択し、与えられた語を用いて、地学的に意味のある文章を作成する問題であった。与えられた語から文のテーマを決定し、適切な語句を加えながら地学的な内容の文章にまとめる必要があった。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

広島大学の前期試験では、例年、地学基礎と地学のほぼ全分野から、記述、論述、計算、描図など多様な形式で出題される。特に、地学現象や用語についての説明を求める論述問題がよく出題されるため、各分野の地学現象とそのしくみを理解し、自分の言葉で説明できるように練習しておく必要がある。

煩雑な計算や法則を用いた計算問題が出題されることもあるので、類似する問題に取り組んで慣れておきたい。今回は出題されなかったが、地質図を用いた問題も出題される可能性が高いので、過去問などを用いて演習をしておこう。